

第147回 地区内中小企業景気動向調査結果

(令和 7年 7～9月期実績・令和 7年 10～12月期見通し)

1. 調査時点 令和 7年 9月 1日～9月 5日

2. 調査対象企業数 160 社中回答 160 社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製造業	従業員 300人以上	1	1	100.0
〃	従業員 300人以下	32	32	100.0
建設業	従業員 300人以下	2	2	100.0
〃	従業員 50人以下	36	36	100.0
卸売業	従業員 50人以下	9	9	100.0
小売業	従業員 50人以下	51	51	100.0
サービス業	従業員 300人以下	1	1	100.0
〃	従業員 50人以下	28	28	100.0
合計		160	160	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指標・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課 (TEL. 0146-22-4100、内線 855)

〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 160企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

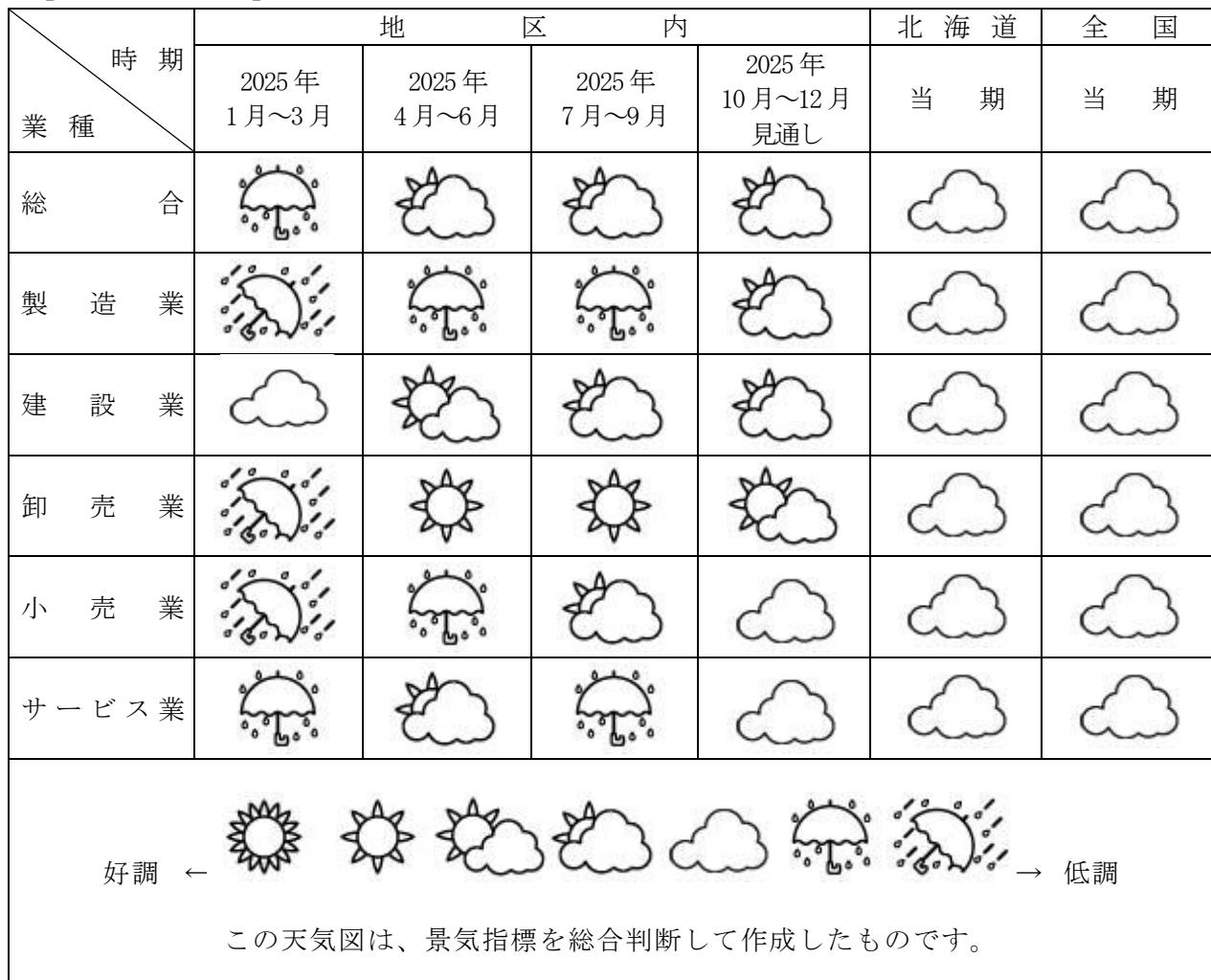
□ 概 態 況

今期(令和7年7~9月期)の業況判断D. I. は△8.8と、前期(△7.4、令和7年4~6月期)比1.4ポイント下降した。前年(△12.3)比では3.5ポイント上昇した。前期(令和7年4~6月期)調査時点での今期(令和7年7~9月期)見通し(△2.5)を6.3ポイント下回る水準となった。業種別の業況判断D. I. は、製造業△30.3(前期△29.4)、建設業5.3(同12.8)、卸売業55.6(同33.3)、小売業△7.8(同△23.1)、サービス業△24.1(同6.9)となった。

売上額判断D. I. は8.8と、前期(8.0)比0.8ポイント下降、収益判断D. I. は1.3と、前期(△3.1)比4.4ポイント上昇した。

来期(令和7年10~12月期)の予想業況判断D. I. は△6.9と、今期実績比1.9ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造業3.0(今期△30.3)、建設業2.6(同5.3)、卸売業11.1(同55.6)、小売業△19.6(同△7.8)、サービス業△13.8(同△24.1)と来期を見通している。

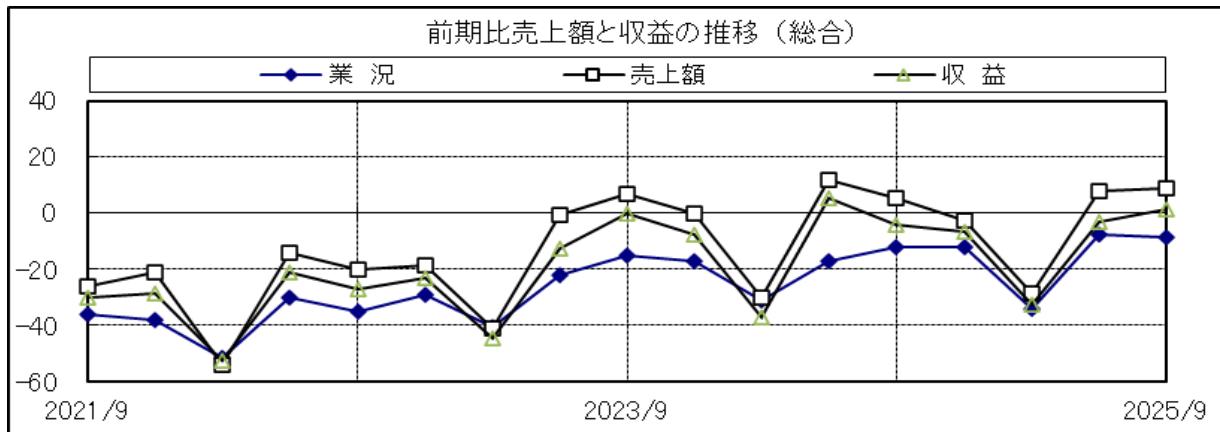
【業種別天気図】



□ 景況

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
業況	-33.7	-7.4	-8.8	-6.9
売上額	-28.2	8.0	8.8	8.8
収益	-31.9	-3.1	1.3	0.6

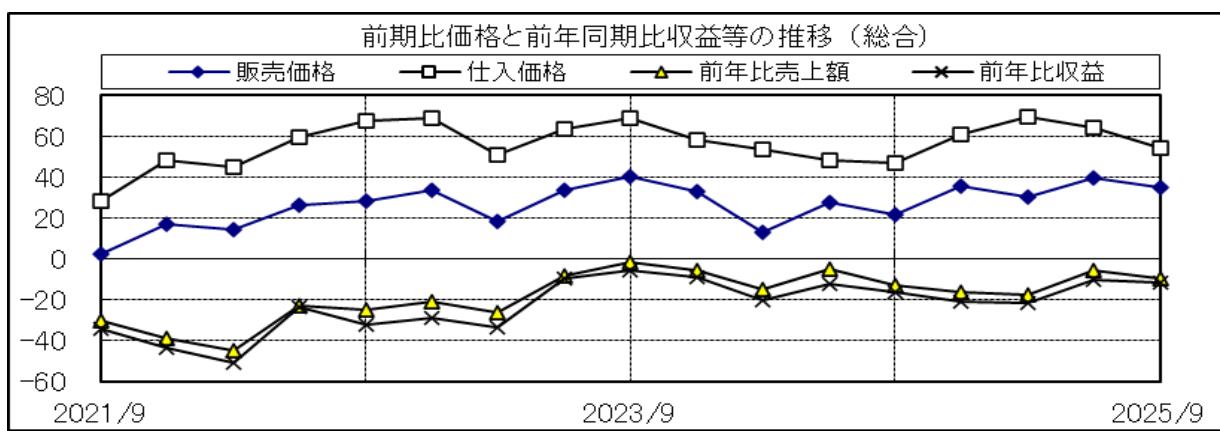
全業種総合の今期の業況判断D. I. は△8.8で、前期比1.4ポイントの下降、前年(△12.3)比では3.5ポイント上昇した。地区別のD. I. は、高い順に、三石が最も高く、次に同率で静内・えりも・様似・浦河と続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断D. I. は8.8で、前期比0.8ポイント上昇。収益判断D. I. は1.3で、同4.4ポイント上昇した。



□ 価格面、前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
販売価格	30.7	39.9	35.0	21.9
仕入価格	69.3	64.4	54.4	36.3

販売価格判断D. I. は35.0で、前期比4.9ポイント下降、前年(21.4)比で13.6ポイント上昇した。仕入価格判断D. I. は54.4で、前期比10.0ポイント下降、前年(46.9)比で7.5ポイント上昇した。業種別の前期比を見ると、販売価格は小売業が上昇、卸売業は横這い、他の業種は下降した。仕入価格は、小売業が上昇、卸売業は横這い、他の業種は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期実績	10~12 月 期見通し
残業時間	-8.0	-1.2	-0.6	1.9
人手状況	-28.2	-30.1	-34.4	-36.3

残業時間判断D. I. は△0.6と、前期比0.6ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断D. I. は△34.4と、前期比4.3ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

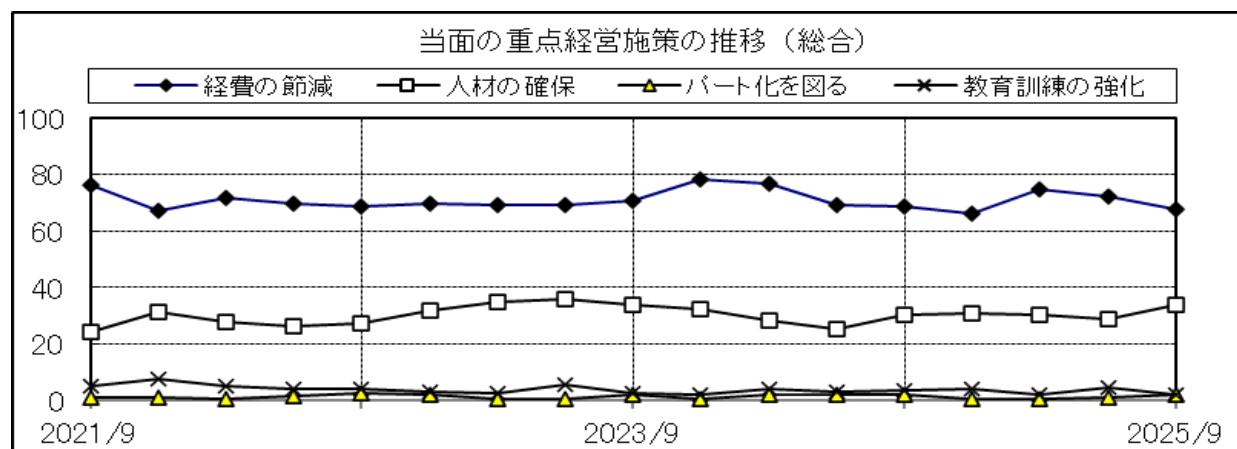
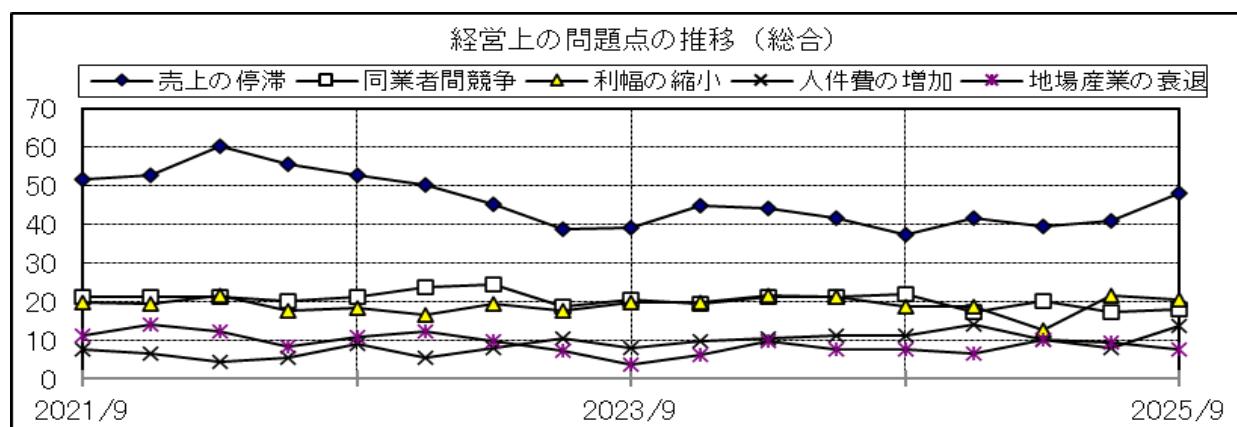
設備投資の充足感を示すD. I. は△15.0で、前期(△11.7)比3.3ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は16.9で、前期(11.7)比5.2ポイント上昇した。設備投資は、前期19社に対し、27社の実施となった。来期の設備投資は、22社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が48.1%で最も多く、次に「人手不足」28.1%、「利幅縮小」20.6%、「同業者競合」18.1%、「人件費増加」13.8%、「地場産業衰退」7.5%、「諸経費増加」6.9%、「天候不順」3.1%、「代金回収悪化」2.5%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が67.5%で最も多く、次に「人材確保」33.8%、「不動産有効活用」2.5%、「パート化」・「教育訓練強化」が1.9%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△6.9と、今期比1.9ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は8.8と、今期と同水準を見通している。

予想収益判断D. I. は0.6と、今期比0.7ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D. I. は21.9と、今期比13.1ポイントの下降を見通している。

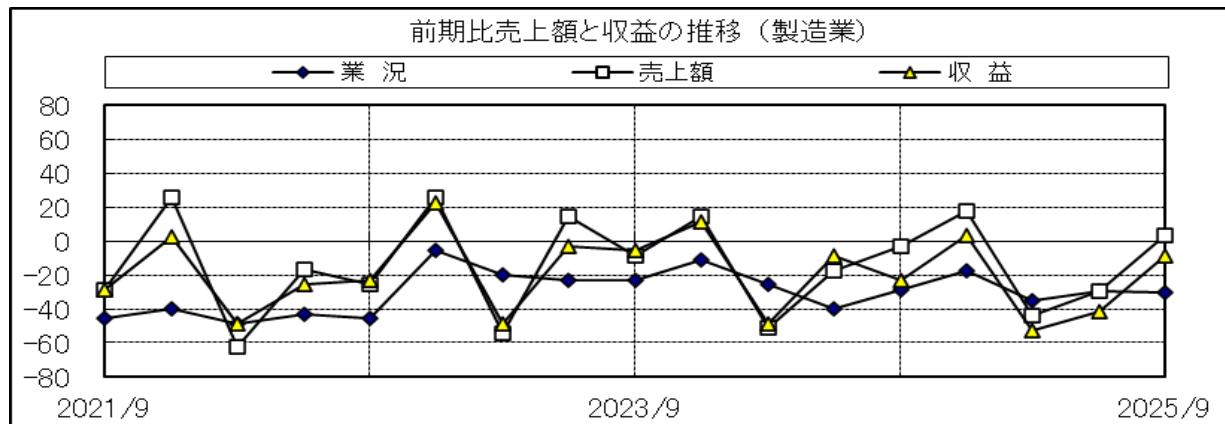
予想仕入価格判断D. I. は36.3と、今期比18.1ポイントの下降を見通している。

製造業 33企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業況	-35.3	-29.4	-30.3	3.0
売上額	-44.1	-29.4	3.0	36.4
収益	-52.9	-41.2	-9.1	18.2

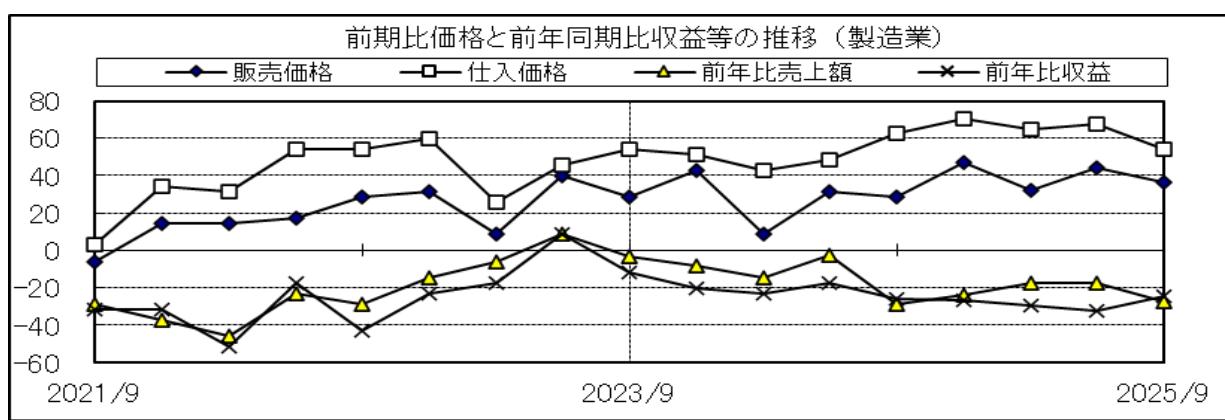
今期の業況判断 D. I. は△30.3 で、前期比 0.9 ポイント下降、前年(△28.5)比で 1.8 ポイント下降した。地区別の D. I. は高い順に、浦河が最も高く、次に三石、様似、同率で静内、広尾と続きえりもが最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は 3.0 で、前期比 32.4 ポイント上昇。収益判断 D. I. は△9.1 で、前期比 32.1 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	32.4	44.1	36.4	27.3
仕入価格	64.7	67.6	54.5	39.4

販売価格判断 D. I. は 36.4 で、前期比 7.7 ポイント下降。前年(28.6) 比では 7.8 ポイントの上昇した。仕入価格判断 D. I. は 54.5 で、前期比 13.1 ポイント下降、前年(62.9) 比では 8.4 ポイント下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	-2.9	-2.9	-3.0	9.1
人手状況	-26.5	-44.1	-42.4	-54.5

残業時間判断 D. I. は△3.0 で、前期比 0.1 ポイント下降し、残業時間が若干減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△42.4 で、前期比 1.7 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

□ 設備投資の動き

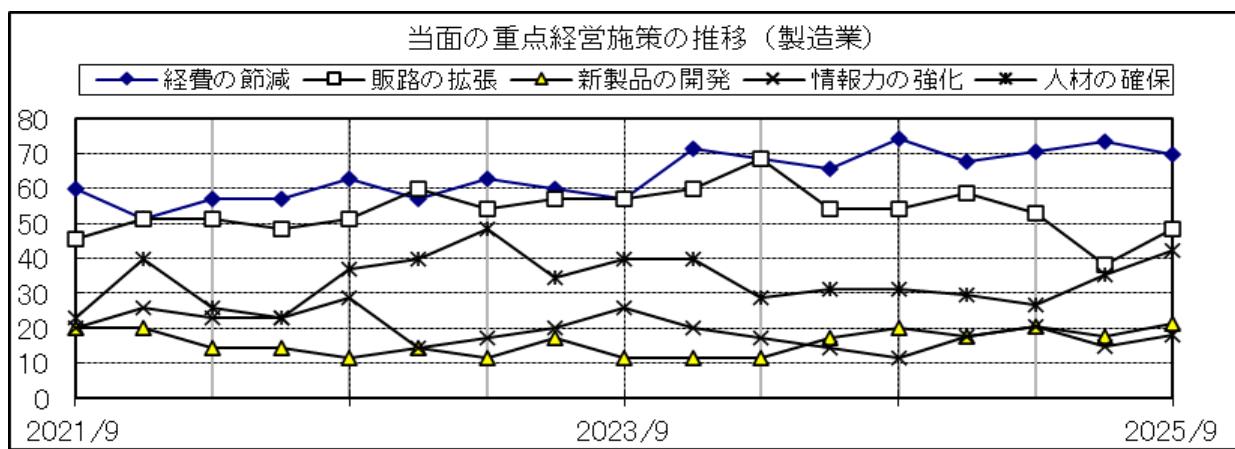
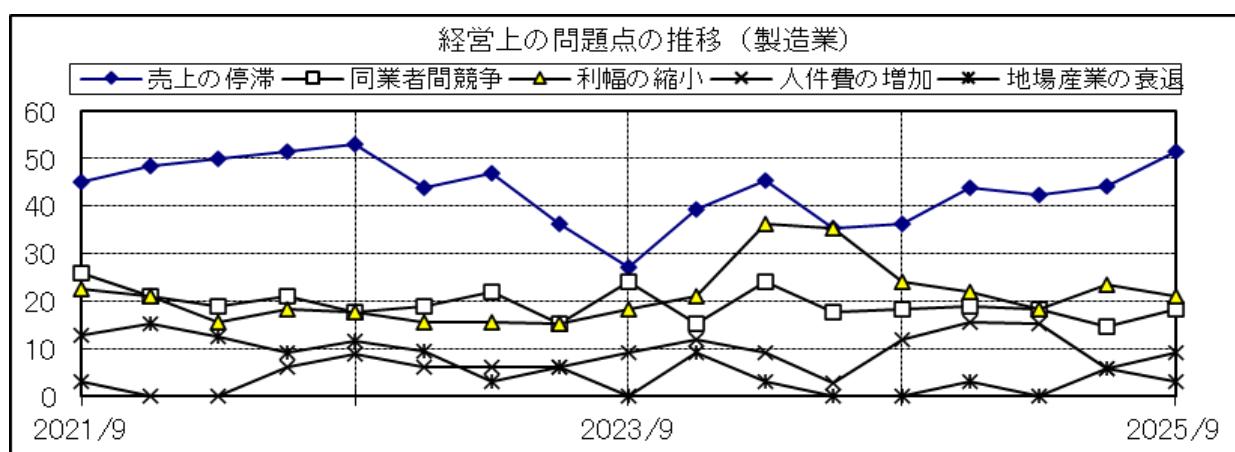
設備投資の充足感を示すD. I. は△24.2で、前期(△23.5)比0.7ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は21.2で、前期(17.6)比3.6ポイント上昇した。設備投資は、前期6社に対し7社の実施となった。来期の設備投資は、7社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「原材料高」が69.7%と最も多く、次に、「売上停滞減少」51.5%、「人手不足」42.4%、「利幅縮小」21.2%、「同業者競争」18.2%、「工場機械老朽化」12.1%、「値上要請」・「人件費増加」が9.1%、「大手企業競合」・「諸経費増加」が6.1%、「合理化不足」・「生産能力不足」・「地価高騰」・「天候不順」・「地場産業衰退」が3.0%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が69.7%と最も多く、次に「販路拡大」48.5%、「人材確保」42.4%、「新製品開発」21.2%、「情報力強化」18.2%、「工場増設移転」15.2%、「不採算部門縮小」6.1%、「提携先確保」・「機械化促進」・「パート化」が3.0%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は3.0と、今期比33.3ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は36.4と、今期比33.4ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は18.2と、今期比27.3ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は27.3と、今期比9.1ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は39.4と、今期比15.1ポイントの下降を見通している。